

令和6年1月30日

豊小学校学校関係者評価委員会

委員長 梅本澄雄



## 【第2回学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 令和6年1月25日
- 2 会場 豊小学校相談室
- 3 参加者

## (1) 学校関係者評価委員

No.	氏名	役職	備考
1	荻野 和彦	豊地区自治会会長	
2	齊藤 尚子	元本校校長	
3	梅本 澄雄	元本校校長	委員長
4	津久井 豊徳	豊地区教育振興会会長・元校長（楡形中学校）	
5	築野 一彦	小中一貫教育推進協議会委員・元校長（白根百田小）	
6	吹野 武文	元豊地区主任児童委員	副委員長
7	中込 宏	PTA会長（保護者代表）	

## (2) 学校職員（3名）

No.	氏名	役職	備考
1	井上 武人	校長	本校在籍1年目
2	横山 啓二	教頭	本校在籍3年目／事務局
3	相田 由希子	教務主任	本校在籍4年目

## 4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による後期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する後期前期児童アンケートの状況
- (3) 学校生活に関する保護者アンケートの状況
- (3) 豊小学校後期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

## 5 協議内容・意見

○豊小学校後期自己評価書に対する考察

（教職員・児童・保護者アンケートの考察／改善方策に対する検証）

## (1) 学校経営・組織について

- ・職員間での、報告・連絡・相談がなされていて、教職員が1チームとなって学校経営・学習指導にあたっていることがわかる。
- ・校務分掌の担当によっては大変なところもある。担当者一人に任せることについて見直しも必要である。また、若い教師が増えてきていたり、異動が激しかったりするようなので、配慮が必要であろう。

⇒児童会主任，体育主任，音楽主任等，全校が関わってくる担当については，業務の負担感がある。適材適所で校務分掌を配置しているが，働き方改革や若手の育成も考えて，同じ職員が同一の分掌を担当するのではなく，担当を分散したり複数人で担当したりすることを考えている。

- ・危機管理については，A評価が落ちているので上げる必要がある。1月の能登半島地震を受けて，積極的に児童への指導を行ってほしい。いつ，どこで起こるのか分からないからこそ，常に危機管理を意識していくことが大切である。確かに，これまで豊地区では大きな災害がなかったが，だからこそ，地域とともにあって危機管理意識を高めて行ってほしい。

## (2) 学習指導について

- ・山梨県は四年制大学への進学率が全国で3番目であるという報道があった。学校における学力が受験学力だと思われるところもある。しかし豊小学校では，目に見えない学力，測れない学力，人間性を大切にしてほしい。また，先生たちは，新しい学び，子どもたちが学んでいくという授業改善を目指して，校内研究会や授業を見合う中で学んでほしい。
- ・家庭との連携も重要である。「授業との結びつきを意識した家庭学習」や「家庭学習がんばろう週間」などの取組を継続して行ってほしい。
- ・学習指導には，授業改善と家庭との連携，そして学級集団づくりの3点セットになることが，学力向上につながっていく。地域ふれあい道徳公開で授業参観させてもらったが，どの学級も落ち着いて授業に臨んでいた。学級集団づくりは非常に良いと思った。
- ・学年通信，学級通信をきっかけに，子ども達が学校での出来事を話したり，親が聴いたりという習慣づくりができると，さらに学校，学級と家庭との連携ができるのではないだろうか。
- ・児童の「学校の授業が分かる」，保護者の「お子さんは，授業の内容が分かっている」の肯定的評価は90%であり相対的には，先生たちが分かりやすい授業を行ってくれていると思うが，否定的評価が8%ほどになっている。30人学級であれば，2～3人にあたる。前期もやはり同じ割合であり，おそらくは前期と同じ児童が同じように感じているのではないだろうか。学校生活の一番大切な部分であり，時間的にも占める割合が大部分になる授業が，「分からない」となるとのその児童も親も「学校生活が楽しくない」に結びつくのではないか。少しでも「わかる」瞬間を作って，達成感みたいなものが味わえるようにしてほしい。
- ・同じ授業というのは1度もない。同じ学級であっても1時間1時間，反応は違って，実は宝の山である。教師が掘り出せば，宝がいくらでも出てくる。教師は謙虚に授業に臨み，8%の児童が「わかった」と思える授業づくりをして行ってほしい。
- ・否定的評価について，「見える化」していくことが大切だと思う。教職員アンケートの「PDCAのサイクルで教育活動の向上に努めている」のA評価が32%から65%に上がっている。どんな取組があったのか。繰り返していくときに，具体的にどういふところを意識的に取り組んでいるとか，話し合っただのようにつながってきたのが，教師間で見えてくると，家庭との連携というところにもつながってくるだろう。

⇒今年度はこれまで止まっていた学校行事が動き出す中で，以前の様子もわからず，手探りで行ったことや，新たな形で取り組んでみたことがあった。ここでふり返りをしっかりと行い，次に生かせるように成果や課題を洗い出す必要があり，PDCAへの意識が高まったのではないだろうか。

⇒校内研で取り組んでいる授業改善の部分でも，児童に「ふり返り」の重要性を示している。校務分掌においてもふり返りを大切に，次の取組や来年度へつなげようとしている。

- ・学習規律や学習習慣，家庭学習の定着に向けて，「学びプラン」をより一層充実させてほしい。数%の子が，よく分からず迷っていて授業が辛いと思っている。そういう子にしっかりと目を向けて授業を行ってほしい。学ぶ中で，自分にもできたという自尊心が生まれる。勉強して

よかった、自分も大丈夫だなという意欲をもたせるのが学習だと思う。そういうことにさらに気を配ってほしい。

- ・落ち着いた環境でないと読書活動はできないと思う。落ち着いた時間を作ったり、教師が読書する姿勢を見せたりしながら、読書の大切さを伝えていってほしい。読書週間などでの「先生のおすすめの本」や教師や図書委員の読み聞かせなどこれからも続けていってほしい。
- ・分かる授業、楽しい授業を仕組むなかで、子ども自身が、「この発言は生かせるな」と思えるようにしてほしい。どの学校でも人の考えを聴くことはできるようになるが、自分から進んでみんなの前で発言したり、自分の考えを伝えたりすることが日本人全体としても、地域的にも苦手なような気がする。より積極的で、人前で恥をかいてもいいのだという気持ちももたせたい。
- ・中学校での参観で、ICT活用の場面があった。これからは「生きる力」の一つであると思うが、豊小学校での様子はどうか。  
⇒年齢関係なく、職員みんなが新しいものを取り入れることに関心が高く、教師間で教え合う雰囲気もある。児童が一日に使用する頻度については、市内のなかでも回数が多いほうに入っている。
- ・子どもに確かな学力を身につけさせ、子どもを育てるために作成した「豊小学びプラン」とは⇒児童の実態やICTとの関わりなどで少しずつ改訂しているが、家庭学習についてや、学習環境・学習用具について、ノートの使い方や学習プロセス等についてまとめてあるもので、年度初めには全職員で確認し合い、4月のPTA総会の折には保護者にも配付し、家庭での協力もお願いしている。
- ・生きて働く学力を育ててほしい。養蚕学習や切子学習など地域の人を呼んでの取組を継続し、地域とのつながりを大切にしていってほしい。

### (3) 生徒指導・生活指導について

- ・「困ったことがあったら相談できる先生がいる」については、児童が自発的に相談する想定なのか、先生が尋ねたときに答えられないということなのか、教師がアンテナを高くすることが大切なのではないだろうか。また無言清掃の「無言」とは、どういうところに焦点をあてているのか。  
⇒学校としては極力相談しやすいような環境をつくっていかなければいけない。同時に児童には自分の思いであったり気持ちであったりを表現できるようになってほしい。無言清掃については、靴をそろえる活動と併せて、基本は心をそろえる、みんなの心をそろえるというところにある。掃除のときに話をしながらということの良さもあるが、まずは集中する。そして無駄なことは考えずに、無駄なことはおしゃべりをせず集中してやることで、みんなできれいにしていこうというところを目指している。靴をそろえることについても、そろっているところの気持ち良さやみんなの一つのことに取り組んでいる、みんなの思いがひとつになっていることを見える化するための取組という認識で行っている。
- ・学級集団づくりが、学習や生活等の基本である。その人間関係を構築していくためには「Simple」プログラムの取組がとても有効である。
- ・教職員が児童へ積極的に働きかけて信頼関係を築くことで、常に児童の状況をよく把握していると思われる。またいじめアンケートや日常の訴えから見えてきた課題にも丁寧に聴き取りや「いじめ対策委員会」での対応など、困難があったらすぐに取り組む、すぐに相談する、そういう会や環境が作られていて良い。

### (4) 保護者・地域との連携について

- ・保護者アンケートの自由記述については、届いたもの全てを載せているのか。  
⇒すべて載せて、職員で共有している。
- ・ポジティブな意見もネガティブな意見もあるが、「学校は応えてくれるだろう」という期待の表

れともとれる。学校に対する安心感である。これらをこれからどうしていくのか職員で共有してほしい。

- ・学校、行政、地域、保護者、それぞれが取り組むことがある。また協力し合って取り組むこともある。しっかり見極めて、個人で抱え込まず、組織としてチームとして、みんなで取り組んでほしい。
- ・子どもが話してくれたことを保護者がそのまま学校に持っていくことは、子どもが話す機会を失ってしまうことになる。子どもの話を保護者は一度子どもに返して考えさせたり、一緒に考えたりして、保護者が子どもの思いを取ってしまわないようにしたい。

(5) 小中一貫教育について

- ・1中4校で小中一貫教育を進めていくことは、物理的に難しいところがあるが、9年間の教育を一貫させてほしい。中学校の生徒が小学校に来て、活躍している場面がある。歩みは遅くとも、一步一步できるところから進めてほしい。

(6) その他について

- ・心身ともに健康でなければ子どもの教育はできない。管理職は職員の健康状態、勤務状態に気を配り、教職員が健康に働ける職場になっているように心がけてほしい。何よりも家庭を大切にできるように、教師のウェルビーイングを大切に、そして子ども達のウェルビーイングを高めてほしい。